



**子育て支援3つのゼロ
実現を**
平良木 哲也（日本共産党議員団）



問／コロナ禍と物価高騰の中、子育て支援の強化として、①給食費ゼロ、②子どもの医療費ゼロ、③子どもの国保税ゼロの3つのゼロを実現すべきではないか。

答／給食費は、経済的に就学困難な児童生徒に支給しているほか、子ども医療費は未就学児と市民税非課税世帯の小学生は無料にしている。子どもの国保税減免は、保険税が確保できないので考えていない。

問／所得の多寡に関わらず、すべてのお宅が、今、困っている。近隣市ではどうなっているか。

答／妙高市は、一部補助を実施している。

問／妙高市では主食部分を3年前から無料にしている。そういった段階的な負担軽減の方法もあるが、実施してはどうか。

答／子育て支援では、就学困難な皆さんを支えることに重点を置いて施策を実施している。保育園等も同様である。

問／子育て支援の充実は、同じ教室で同じように学んでいる子どもたちすべてを対象にするのが基本だ。仮に低所得世帯を重点に支援するというのであれば、現在の対象を広げる考えはあるのか。基準自体が低いのではないか。

答／どこかで線引きが必要だが、市政全体のバランスの中で、どこまで子育て施策に重点を置くかの検討が必要だと考えている。



**地域課題解決のため
上越三市長の懇談を**
池田 尚江（創風）



問／市長は、地域の課題解決のため、リーダーシップを発揮し、妙高市長・糸魚川市長と定期的に懇談の機会を設けるべきと考えるがどうか。

答／池田議員と同じく、三市長が会う必要性を感じている。さらなる連携強化が必要な課題も多いため、地域全体の発展をけん引する役割を果たす視点も持って、市政運営に臨んでいく。

上杉謙信公を顕彰する各種記念事業

問／今後の謙信公祭百回・謙信公没後四百五十年・生誕五百年の記念事業の際に、春日山城を守ってきた支城・砦がある地域の皆さんを招待してはどうか。

答／これらの記念事業については、市民をはじめゆかりのある全国の地域の方々と共に祝いたい。その中で、支城や砦を守る皆さんとの連携の取り組みについて検討していきたい。

副市長4人制のボールの行方は

問／令和3年12月定例会で、議会はボールを市長に返したと認識しているが、返したボールはどこへ行ったのか。



答／これからも皆さんとキャッチボールをする機会を作っていきたいと思っている。



**「雪と生きる」覚悟と
誇りのある上越を！**
滝沢 一成（政新クラブ）



問／第7次総合計画案に「上越市ならでは」とある。「上越市ならでは」とは、「人々が多く住む都市（あるいは人口集積地）×平地から山間地まである市域×世界でも稀な豪雪」だ。「雪と生きるまち上越」を追求することが、上越にしかない魅力を創成することと考えるがどうか。

答／雪は、当市のまちづくりにおいて欠くことのできない存在であり、克服の対象とされる一方、私たちの暮らしに多くの恵みをもたらし、当市ならではの文化や風土の形成に大きな影響を与えてきた。清廉で豊富な雪解け水は、農業や酒造りを支え、雪国の風土に育まれた発酵食品など、豊かな食文化が連綿と息づく。

大雪にも屈せず、雪を利用する雪国文化を育んだ知恵と技術、雁木に象徴される他者を思いやる心など、雪とともに歩んできた私たちの歴史や暮らしは、自信を持って全国に発信することのできる大切な財産である。

今後、人口減少や高齢化の進展により、各家庭での除排雪が困難となる。共助公助による除排雪体制づくり、安心して暮らすことのできるまちづくりを進めなくてはならない。

第7次総合計画の基本目標の一つ「安全安心、快適で開かれたまち」の実現に向け、利雪や克雪の取り組みとともに、雪国文化の継承に取り組んでいきたい。